

皆さま、こんにちは。たくさんの方が今日お集り頂きまして、心から嬉しく思っております。ありがとうございます。

この大勢の人数がアセンブリホールに集まっているというのが懐かしい感じがしております。会の直前に「静かにしなさい！」と言いたくなるような賑やかさで、その感じも懐かしいと思っております。

同窓会の運営、企画につきましては、三浦会長をはじめ、東京支部長の小松様、青谷会会員の皆さまや顧問の先生等、様々な方々が関わって下さっているおかげで、この同窓会が成り立っています。同窓生がいらっしゃる限りはこの同窓会があります。どのような形で運営されるかはこれからの話となりますが、皆さまが続けたいという意思をお持ちである限りは何らかの形で、この同窓生の集まりというものが続いていくのではないかと思います。

審議事項にもありましたが、同窓会から大学への援助金は、経済的に困窮している学生への奨学金、学生購買部維持費など学生生活充実のために使わせていただきました。ありがとうございました。

今年度の学生数は総勢44名（3年19名、4年25名）です。休み時間にみんながワイワイ言いながら歩いたり、教室に入ったら賑やかである、そういうことが今はなくとても寂しいものではあります。色々な学生がおり、強い意思をもって勉強している学生たちも勿論おりますし、困り感を持ち、支えがないと前に進めない学生もいます。しかし、それぞれが一步ずつ前に進もうとしております。

その学生の課外活動の一環として、コーラス部の学生6名が、7月5日に宝塚ベガホールで行われるジョイントコンサートに参加します。昨年からはまったこの企画は、コロナ禍によるクラブ活動の縮小を受け、甲南大学の先生が「歌いたい学生がいるなら」と呼びかけて実現したものです。今年は海星を含む5つの大学が合同で出演し、女性・混声のステージでは、神戸親和大学の学生が作詞、本学音楽教授・南夏世先生が作曲を担当。学びを超えた貴重な交流の場となっています。

また、前向きに学生生活を楽しみたいというグループに大学祭運営委員会があり、昨年で終わりかと思っておりましたが、今年もやりたいと4年生が中心となって大学祭をすることとなりました。10月26日日曜日に開催する今年のテーマは「戀〜ひとつの心、みんなの笑顔〜」（戀=らん）で、学生全員が協力し合い、その結果としてみんなが笑顔になるような、そんな一日にしたいとの思いが込められております。

青谷会の皆さまにもホームカミングデーとしてたくさんご参加いただきたいと思いますが、今までのように学生の模擬店をたくさん出して皆さまをおもてなしする余裕は少しないかな、と思います。懐かしい場所を楽しんでいただき、青谷会の企画するカフェやバザーを中心にお楽しみいただくとと思いますが、ご了承ください。

今後も、海星を愛していらっしゃる卒業生の熱意が今いる学生たちの希望として伝わるとよいなと思っております。今学んでいる学生たちが、海星で学んでよかったと思って卒業していくことができるよう、皆さまの支援をお願いいたします。

2025年4月に教皇になられたレオ14世は「教会の舟を、危険を避けながら、平和の港へと導いてください」と聖母に祈られました。海星が終着地に無事にたどり着けるようにお祈りください。そして、海星の同窓生として繋がりながら、海星の同窓生であることを誇りに思いながら、ともに歩むことができるようにと思います。